

VOGUE

NIPPON

10

October
2005
No. 74
¥680

ヴォーグ ニッポン

別冊付録①

Bag315

女優のバッグを
オークション!

別冊付録②

VOGUE Girl at TOKYO

デザイナー自らが語ります。
「私のバッグは、ここが魅力!」

ドルチェ&ガッバーナの
華麗なる20年。

ダライ・ラマ、密着紀行。
よしもとばなな、リチャード・ギアetc.
セレブが語る“魅力”とは?

ブルース・ウェーバー特別誌上編集。
「トゥルーへの手紙」ポスター。

あなたの“くびれ”が
いまイチな理由。

from i with
RUSSIA LOVE

ロシアより愛を込めて。

注目は、ファーと刺繍! モードがロシアに恋してる。
ロシアのモードセレブを探せ!
ゴルチエが案内する、エルメスのロシアの旅。

books

国際結婚の光と影、お教えします。

文：実川元子

『ヴェネツィアふたり暮らし』は夢のような愛の物語だ。「運命。真実の恋。あなたに恋してしまった」。取材で訪れていたヴェネツィアで、アメリカ女性である著者はイタリア男性に突然こう告白された。すでに壮年にならした2人とはいえ、異国人同士のラヴストーリーならよくある話。しかし結婚生活となると、言葉、文化、育ってきた環境、すべてちがうことがストレスになって2人はたびたびいさかいを繰り返す。そのたびに出会ったときの原点に戻り、あらためて2人で国際結婚の困難を乗り越える決意を固める。

パリの画廊で出会った日本人研究者とフランス人女性弁護士は、日本で結婚生活を始めた。かわいい男の子にも恵まれ、順風満帆……と言いたいところだが、言葉や習慣のちがいからあたふたすることもいっぱい。だが『妻はパリジェンヌ』の著者やまぐちヨウジ氏は、困ったこともからりと明るく笑い飛ばす。国際結婚した夫婦の間にあるさまざまな相違は、ユーモアのセンスさえあればおもしろいネタの宝庫となるのだ。

国際結婚を選んだ理由を、大半の人は「結婚した相手がたまたま外国人だっただけ」という。だが離婚となると、法律のちがいに阻まれて日本人同士のようにはいかない。99年に「国際離婚を語りあう会」のホームページを立ち上げ、相談に乗ってきた著者が国際離婚の実態に迫る。



1

『ヴェネツィアふたり暮らし』

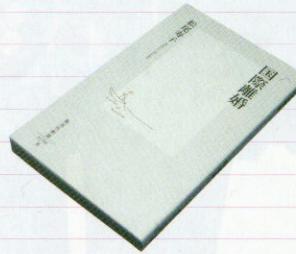
マリーナ・デ・ブライジ 小梨直訳
河出書房新社 ¥1,785



2

『妻はパリジェンヌ』

やまぐちヨウジ
文藝春秋 ¥1,680



3

『国際離婚』

松尾寿子
集英社新書 ¥714

Raw or Whole?
気になる食に迫ります。



スローフード、マイクロビオティック、LOHASといった言葉が市民権を得た今、「身体にも地球にも優しい」食と生活はもはや常識の感も。

ハリウッドセレブやモデルにも実践者が多いローフードは、自然の食材を生(加熱する場合は48度以下)で摂取し、生きた食物酵素を取り入れ、代謝と消化を改善する食餾療法。『はじめてみよう ローフード』では、栄養学的データから、意外に豊富な

レシピまでを丁寧に紹介します。

思想には共感するけど、そこまで徹底するのは……という人には、とびきり美味しい、お肌も環境もキレイになるレシピが満載の『ホールフードクッキング』がお勧め。(編集部)

(右)『はじめてみよう ローフード生活』齊木豊・閻戸美穂子 柏書房 ¥1,470
(左)『玄米・野菜のナチュラルレシピ～ホールフードクッキング』タカコ・ナカムラ 柴田書店 ¥1,995

music

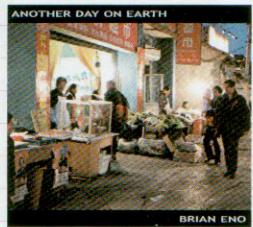
凄腕プロデューサーは、偉大なミュージシャン!

文：岡村詩野

今月はプロデューサーとしても活躍を見せる曲者たちの最新ソロ・ワークを紹介。いずれもキャリア十分のベテラン勢だが、まったく衰えの感じられない感性豊かな作品が次々と送りだされてきているのに驚きを隠せない。まずデヴィッド・ボウイやトーキング・ヘッズなどの作品に馴染んできたブライアン・イーノが、28年ぶりのヴォーカル・アルバム『アナザー・ディ・オン・アース』をリリース。アンビエント・タッチの穏やかなまどろみに満ちた作品だが、肩の力が抜けた発声を生かしたメロディ・ラインには凜とした気品が感じられる。

そのイーノとコラボレートしたこともあるダニエル・ラノワは『ペラドンナ』でメキシコ滞在での経験をもとにしたロード・ムーヴィー的世界を開拓。過去にU2やボブ・ディランらの作品に新たな息吹を注入してきた奇才だが、ここでは自らベダル・スタイルも操りながら中米の妖しい熱気を見事にとらえている。

PJハーヴェイのプロデュースで名をあげたジョン・バリッシュは、イタリア録音を中心とした『ワーン・アポン・ア・リトル・タイム』を発表。近年活動をともにしてきた仲間ミュージシャンと離れ、あえて異国地で荒涼としたアメリカの田舎を描く姿はさながら吟遊詩人のよう。枯れた風合の歌に心がそっと揺らいでいく。



1

ブライアン・イーノ

『アナザー・ディ・オン・アース』

Beat Records
¥2,500



2

ダニエル・ラノワ
『ペラドンナ』

ソニー・ミュージックジャパン
インターナショナル
¥2,520



3

ジョン・バリッシュ
『ワーン・アポン・ア・リトル・タイム』

HEADZ
¥2,415

天使の歌声を持つ彼と、
キッキュな姉妹デュオ。



ルー・リードのアルバム『ザ・レイヴン』に参加したファルセット・ヴォイスの男性シンガー、アントニーが静かな人気を呼んでいる。

ジミー・スコットやニーナ・シモンを思わせる豊潤な歌声はまさしく天使の贈り物といったところで、最新アルバム『アイ・アム・ア・バード・ナウ』をきっかけに今年は各地のジャズ系フェスでも引っ張りだこだ。そんなアントニーとのツアード

こちらも話題騒然の姉妹デュオ、コロージーの『ノアズ・アーク』も大推薦。斬新なコラージュを施したキッキュな一枚ながら、ヨーロッパ耽美主義への傾倒もそこかしこに。アントニーももちろん参加している。

(右)アントニー・アンド・ザ・ジョンソンズ
『アイ・アム・ア・バード・ナウ』Pヴァイン・レコード ¥2,415
(左)コロージー『ノアズ・アーク』Pヴァイン・レコード ¥2,415